

## 「北海道グローバル戦略」の改訂に係る第2回有識者懇談会 議事録

日時：令和3年11月5日（金） 9:30～10:35

場所：ホテルポールスター札幌  
（札幌市中央区北4条西6丁目）

出席者：別紙1のとおり

北海道：総合政策部国際局 酒井局長、曾根国際課長、黒田課長補佐  
経済部経済企画局 沖野国際経済担当局長、堀内国際経済課長、中上主幹

### （国際課 曾根課長）

ただいまより、「北海道グローバル戦略」の改訂に係る第2回有識者懇談会を開催いたします。私は、前回に引き続きまして司会進行を務めます道国際課の曾根と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の出席者につきましては、お手元の出席者名簿でご確認いただくことにさせていただきます。

なお、JICA 北海道の石丸所長におかれましては、用務の都合により欠席となっております。後日、事務局から個別にご説明をさせていただきます。

続いて、道側出席者として、11月1日付け人事異動により、国際局長として、前任の工藤に代わり、酒井が出席しておりますので、この場をお借りしてご報告させていただきます。

本日お配りしている資料について、ご説明させていただきます。資料1から3と資料5につきましては、事前にお送りさせていただいております。資料5については、内容を一部修正させていただいております。

また、資料4につきましては、本日新たに配布した資料となります。後ほど、他の資料と合わせてご説明をさせていただきます。

事務局は、前回に引き続き国際課と経済部の国際経済課が対応させていただきます。それでは、有識者懇談会の開会に当たりまして、国際経済担当局長の沖野よりご挨拶申し上げます。

### （経済部 沖野局長）

みなさま、おはようございます。

本日は、お忙しい中、朝早くからご参集いただき感謝。

前はオンラインだったが、今回、こうして皆様一同に集っていただき、前回とは異なったよりリアル感のある議論ができるのではないかと思います。

先日、京王プラザホテル札幌で開催された「国連デー記念講演会」に参加させていただき、北大の山中教授の「持続可能な北海道に向けて～私たちから世界までのウェルビーイング」を拝聴させていただいた。まさに今、COP26でも表明されているが、地球温暖化に世界全体として向き合うということが不可欠だという姿勢、メッセージ、これが世界全体の人々に強力に発信されているのではないかと実感している。

私どもに置き換えてみると、グローバル化ということが、特別に挑戦するというようなこれまでの概念から、むしろ道民一人一人が世界情勢を日々の生活あるいは経済に溶け込ませていかなければいけないという状況、そういった時代に突入してきているというふう思う。

後ほど説明があると思うが、この資料5の本編の2ページ目、戦略の最初にSDGs達成への貢献ということをしっかりと記載させていただき、すべての取組がSDGsの

貢献に資するとすることにしなければならないということをお大前提とさせていただきます。

また、3ページ目には、「改訂に当たって」ということで、今般、世界中が大激震となったコロナの影響による社会経済情勢の変化をしっかりと踏まえた上で、今回の改訂を行わせていただくというようなことでこのページも盛り込ませていただきました。

こうした中、先般、皆様から大変貴重なご意見をいただきました。お一人お一人のご意見をSWOT分析させていただきながら、丁寧に読み取らせていただき、改訂案の策定を進めてきているところ。

方向性については、皆様のお考えに合ってきていると思うが、考えにずれなどがあれば、本日ご指摘いただければ幸い。

また、2025年までの戦略として、具体的な取組などについても、ぜひご関連なご意見を頂戴できればと考えている。

終了時間が多少延長になるかもしれないが、ご容赦いただきながら、本日の議論を進めさせていただきたいのでよろしくお願いする。

#### (国際課 曾根課長)

それではさっそく議事に入らせていただきます。

次第2「北海道グローバル戦略(2021改訂版・素案修正)」について、前回ご議論いただきました「素案・(事務局検討案)」からの主な変更点とその考え方などについて、まずは資料1から資料3について事務局から説明させていただきます。

#### (国際課 黒田補佐)

国際課課長補佐の黒田。私から、資料5「北海道グローバル戦略(2021改訂版・素案修正)」について、前回お示した事務局検討案からの変更点などについて説明させていただきます。

まず資料1をご覧ください。本資料は、前回委員の皆様から頂いた意見などを分類し、10の分野に大別している。主なご意見をご紹介しますと、

- ・ 「1 戦略全般」-②として、

「今後取り組むべき事項について明確に伝わるよう工夫が必要」といった意見をいただいている。

また、

- ・ 「6 デジタル化」-②として、

「デジタル技術の活用にあたって、こうした環境を構築できない方への支援が必要」といった意見や、

- ・ 「7 海外展開への取組」-⑦として、

「ブランディングの戦略にあたって、産地の強靱化が必要」

- ・ 「8 外国人材・多文化共生」に関しては、

-②「技能実習生に本道に定着していただく施策が必要」といったご意見や、

-⑤「在住外国人の方々を受け入れ、地域の活性化につなげるため、地域と行政が一体となった取組が必要」といった様々なご意見をいただいたところ。

次に資料2をご覧ください。

委員の皆様からのご意見としては、事務局検討案の中で、基本的な方向性として整理していなかったものや、検討案の中で一定程度整理はしていたが、内容が不十分なもの、道の姿勢を一層打ち出す必要があるものなど、多岐に渡っており、資料2「事務局検討

案からの主な変更点」としては、皆様からいただいたご意見をキーワード化して、見直しの方向性等を整理したものの。

・ 「1 対応方向等の変更にかかるもの」として、

1点目のキーワードとしては、「ターゲットの明確化・重点化」を設定させていただいており、今後の海外展開に当たって、ターゲットとなる国や地域、交流分野など、具体的取組の方向性について整理することとしたもの。

資料5「グローバル戦略（2021 素案・修正版）」の22ページをご覧いただきたい。ターゲットの明確化や重点化をお示しするために今般新たに作成することとしたものであり、このページの中で世界各地域との交流における「エリア別の対応方向」と「(交流)分野別の重点戦略」をお示しする予定。

内容については、各部局と調整中であり、整理がつき次第、皆様方にお示ししたいと考えている。

なお、その他の修正事項については、本資料の右側の欄で修正箇所等をお示するとともに、資料3は、「第1回有識者懇談会等のご意見を踏まえた修正一覧」となっている。時間の都合上、具体的な修正内容についてはこの場での説明は控えさせていただくが、具体的な修正箇所等について整理を行っているので、ご参照いただきたい。

キーワードの2点目は、「世界から取り込む」。

これまで、グローバル戦略においては、「世界に売り込む」、「世界とつながる」、「世界と向き合う」の3つの視点から、海外展開を図ることとしていたが、前回の会議でも複数の方からご意見をいただいたとおりで、今般、全世界が共通で大規模な感染症の拡大ということを経験したことを契機に、今後の海外展開に当たっては、「世界から、経験やノウハウを学び、取り込む」ことが重要と改めて認識し、戦略が掲げる各展開方向において、「取り込む」姿勢を打ち出し。

3点目のキーワードは、「SDG s の推進」。

先ほど、局長の沖野から冒頭ご挨拶でお話があったが、今後の海外展開に当たって、SDG s の理念と合致する施策を推進するという姿勢を明確にするため、本編の戦略の構成として、「SDG s 達成への貢献」として考え方を整理させていただいた。

また、展開方向毎に、戦略の取組イメージの中で、「取組イメージとSDG s が掲げる各プロジェクトとの関連性が分かりづらい」といったご指摘を踏まえ、改めて、取組イメージの内容とSDG s の各プロジェクトの関連性を精査し、アイコン等の整理を行った。

最後のキーワードは、「環境問題への対応と視点」。

脱炭素化など、世界共通の課題解決に向けた機運の高まりを踏まえ、「ゼロカーボン北海道」を掲げる道として、環境問題への対応やその姿勢を打ち出すこととし、戦略の「策定趣旨」や「対応方向」において、環境の視点から文言を追記している。対応方向等に係るキーワードは以上。

次に、「2 取組イメージの変更にかかるもの」として、記載のとおり「デジタル技術への対応」や「グローバル人材の育成」といった委員の皆様からいただいたご意見については、取組イメージなどにその趣旨を反映させていただいている。

最後に、「3 その他」として、各「取組イメージ」の内容について、道民の皆様により分かりやすく伝えるため、例えば、本編 15 ページにある「具体取組例」のページを各「取組イメージ」毎に作成している。

簡単ではあるが、素案事務局検討案からの変更点に関する説明は以上。

#### （国際課 曾根課長）

それでは続きまして、引き続き事務局からご説明させていただきます。

#### （国際経済課 堀内課長）

国際経済課長の堀内。A 3、1枚ものの資料は、お配りしている資料を要約した版となっている。皆様方のご意見や道議会、商工業振興審議会、関係団体の皆様からいただいたご意見やキーワードを本編に反映したものを赤文字で抜粋して1枚にまとめた資料。

上段の1番左側に記載している「社会・経済情勢の変化」について、先ほど局長の沖野からお話させていただいたが、コロナ禍での人々の行動変容や価値観の変化、世界規模の経済危機、コロナショック、こういったキーワードを、本道を取り巻く社会経済情勢の変化として本編に加えた。

また、右側にお示しした3つの「北海道総合計画の見直しの方向性」と整合を図りながら、右の「素案からの主な変更点」に記載のとおり、有識者の皆様や議会からいただいたキーワードを踏まえ、対応方向や取組イメージを赤文字で修正している。

主なものとしては、下段の対応方向や取組イメージをご覧いただきたいが、ターゲットの明確化、重点化のキーワードについては、対応方向②で示しているとおりの有識者の皆様、経済団体のご意見、議会からのご質問を踏まえ、取組イメージの2つめ、市場規模が大きく友好提携先でもある中国、経済成長が著しく北海道人氣が浸透しているASEANなど、重点的に取り組む国や地域、また、米や日本酒といった重点品目を明確化して、視点①の「売り込む」に対象を整理している。

次に「世界から取り込む」というキーワードについては、「売り込むと同時に世界から取り込む双方向の柔軟性が必要である」というご意見があったことを踏まえ、経験、ノウハウを取り込むことが非常に重要であるという受け止めをした。本編の「北海道に今、もとめられているもの」の考え方に加え、視点③「世界と向き合う」のリスクマネジメント、対応方向⑤にも盛り込ませていただいている。

また、キーワードである「SDGsの推進」についても、有識者の皆様や商工審議会、経済団体の皆様からも「北海道として地域のSDGsの取組を推進すべき」、「ESG投資も対応すべき」、「そういった地域の情報を発信すべき」などのご意見をいただいたので、さきほどのご説明のとおり、本編の冒頭にSDGsの考えを示し、全体にかかるように整理した上で、視点③の「向き合う」の中で、世界共通課題という文言を盛り込んでいる。

また、資料の右端にお示ししているが、SDGsの関連指標アイコンを取組イメージに対応させて見える化したほか、環境問題への対応のキーワードについては、有識者の皆様や議会の皆様から、地球規模の温暖化などが深刻さを増す中、環境問題の取組が必要だというご意見をいただいたことから、ゼロカーボンの取組など独自の取組を考慮し、視点①の⑤に脱炭素化に向けた取組を加え、視点②「つながる」の対応方向⑤に取組イ

メージとして各国・地域との知見の共有を整理するなど、それぞれの視点に基づき、具体取組例を写真付きでお示しをするなど、わかりやすくお示しした素案となっている。

**(国際課 曾根課長)**

道からの説明は以上になります。

今回は、皆様方からいただきましたご意見等を基に、修正をさせていただきました。本日はこの修正内容を中心にご発言をいただきたいと考えておりますが、これにつきましてのご意見、ご質問、今回の修正についての受け止めや感想などをいただければと思います。ただいまの説明について、ご発言はございませんでしょうか。

**(北海道ユネスコ連絡協議会 大津会長)**

とてもご苦勞されたと思う。いくつもの改善がなされており、高く評価している。

とりわけ、コロナという人類が今まで経験したことのない経験があり、今の世界をどのように見るのか、というしっかりとした分析がないと、こういう戦略というのは浮ついたものになると思う。そういう意味で、今回、修正案の中で「改訂に当たって」というページを設けられたことは、大変高く評価している。

ただ、これはまだ精査中ということであるので、これから検討されると思うが、気になる点がある。今の文章が、経済が中心となっていること。また、キーワードでコロナショックという言葉が使われているが、「ショック」と言ってしまうと、リーマンショックのように単に株価が暴落したというふうに見えてしまい、矮小化されてしまうと思うので、「パンデミック」というキーワードが必要だと思う。

皆様ご承知のように、21世紀になってから、感染症がグローバルに国境を越えて広がったのは4回目。SARS、新型インフルエンザ、MERS、そして今回のCOVID19。20年の間に4回、数年おきに感染症がグローバルに広がった。コロナが最大のパンデミックであり、まさしく地球規模の非常に大きな影響であった。

なぜ20年間の間にこのように感染症が広がってきたのか。よくメディアで使われている「人新世」という地球の歴史を見たときの区分。我々は、すでに「人新世」という時代に入っているという認識が世界的に定着している。

つまり、地球上の歴史の中で、たくさんある生物の種の中の「人類」というたった1つの種が、この地球環境に壊滅的に影響を与え、生態系を壊してしまった。人と野生生物との関係が非常に密になることで、さっきお話した4つの感染症は、研究はまだ十分進んでいないが、生物から人への感染により、このパンデミックが引き起こされたと考えられている。

今日の世界の情勢をどのようにとらえるかといったときに、私はまず「パンデミック」という言葉で押さえる必要があると思う。

なぜパンデミックというかということ、11月1日時点で世界中の感染者が2億4700万人、死者が500万人を超えている。これは人類の歴史上ないことであり、まさしくパンデミックだと思う。

そのようなグローバルなレベルでの押さえがまず必要であり、次にナショナルなレベルでの分析が必要である。国や地域によってずいぶん状況が異なっており、例えばワクチンの接種にしても、先進国はかなり高い接種率だが、アフリカなどの途上国はまだ10%、20%というところもある。

日本は幸いにも21世紀に入って3回の感染症はほとんど無傷だったので、今回は非常に対応が遅く、一方、台湾や韓国など他の国々は前の感染症から大いに学んでそれを活かしている所以对策が早かった。日本はそういう学びがなかったので、大変深刻な状

況になった。日本にとってコロナ・パンデミックはどういう影響を及ぼしたのかということ进行分析しないといけない。

その際、経済面だけでなく、政治面、社会面、とりわけ社会面での人々の暮らしの大きな変化、政治面では、これまではグローバリゼーションが進められてきたが、非常事態になり、ナショナリズムが台頭し、国境が非常に高くなった。まず自国民にワクチン、マスクを、ということになるのは当然のことではないだろうか。

ナショナルレベルでの影響を押さえたうえで、次にローカルレベルで見て、北海道はどうだったのか。北海道は日本の中でも非常にユニークな地域で、農業、漁業、観光といった産業が経済を支えている。そのあたりを分析する必要がある。

この文章はまだあまり整理されていないと思うので、たとえば、グローバル、ナショナル、ローカルというように段階を追って関連づけながら説明していく。それから、経済と政治と社会。それらの分野もお互いに関連している。その関連も含めて、誰が読んでもわかるような文章で、世の中はこうなっているということがここで書かれたらよいと思っている。

そう見てみると、例えばキーワードは、私はコロナショックではなく、むしろコロナ・パンデミックという言葉が適切だと思う。「不確実性の高まり」という言葉の説明文には経済的要素も社会的要素も入っているので、この言葉自体が曖昧だと思う。「デジタル・グリーン社会」や、「サステナビリティ」は、現状分析を踏まえた上での展望、どうあるべきか、どういう方向に行くのか、という展望に関わるキーワードだと思う。キーワードがそれぞれのレベルの現状分析に関わるのか、ということをも明らかにした上で、今後の見通し、展望、予想についてのキーワードを関連付けるといいのではないか。この書き方だと相互の関連が私にはよく読み取れなかった。そのあたりを念頭に置かれて、このページを書かれてはどうかと思う。

#### **(経済部 沖野局長)**

この部分は、通商白書を参考に記載しているもので大変経済寄りになっている。私も途中まで書きながら、これだとあまりにも経済ばかりだ、ということで悩んだ部分。

しっかり総合的に検討しながら、またご意見を具体的にいただきながら進めて参りたい。

#### **(国際課 曾根課長)**

他の方、いかがでしょうか。

#### **(ジェトロ北海道貿易情報センター 大久保所長)**

全体の方向性については、異論はない。私の話はどちらかというと取組イメージの部分について、今までありそうでなかったもの等について提案させていただきたい。

まず、世界に売り込むというところだが、「北海道ブランドの確立と戦略的活用」という対応の方向性が記載されている。

北海道ブランドとは何か。ブランドであればブランドストーリーがある。北海道ブランド、といったときに例えば観光分野ではいろいろ情報があふれているが、北海道ブランドの担い手となる商品、企業のストーリーが、北海道ブランドの枠組の中であまりイメージできていない。一部、北海道スイーツなどの企業では、企業努力によりブランドイメージを確立されているが、やはり北海道ブランドの担い手の企業、中小企業は多種多様な商品があるので、北海道ブランドをうまく活用して地域の産品を底上げしていくとなったときに、そこのリンク、紐付けが必要だと考えている。

やはり、輸出の担い手は、企業や商品、これがちゃんと売れていくかということなので、ここをまずしっかりと海外に発信していくことが、今までやっていたようで体系的にやっていなかったのではないかと感じている。

個々の企業が情報発信するというのは非常に非効率だし、北海道ブランドの活用うまく紐付けることが非常に難しいと思うので、そういう取組を後押しするような取組がいいのではないかと考えている。

今、オンライン、デジタルの時代なので、たとえばワンダフル北海道ブランド、みたいな形で産地のアップデートや、企業のストーリーというのを動画も入れながら、世界の主要言語で発信していくということがあってもいいのではないかと考えている。その中に北海道産品のシンボルマークも組み込んで差別化を図るという取組がまずあると思う。

このへんは柴田会長とも議論をさせていただき、まずやっぱり北海道のブランド力をいかに活かしていくかといったときに、取り組まないといけないのは情報発信だ、というご意見もいただき、こういったことを考えた。

これができれば、さらにポータル機能を持たせて、たとえばジャパンストリートやどさんこプラザで商品を買うという方向に誘導していくことができる。

今、日本の政府の方では、業界別の業界団体支援をしながら、いろいろな産品で共通のPRを行っている。北海道にもいろいろな団体があるので、そういったところを支援しながら、サイトとリンクさせる。

また、海外のインフルエンサーとか道の海外拠点を通じた効果的な情報収集と情報発信というの、例えば、ワンダフル北海道ブランドサポーターとして、このサイトを通じて募集することや、現地のレストランやサポーター、ロジスティック面でのサポーター、インフルエンサーを登録しながら、さらに北海道ブランドの販促ツールを効果的にプッシュ型で発信していくと、今はなかなか人の行き来ができないので、海外の拠点としての機能を担っていただける可能性があるのではないかと考えている。これが1点目。

もう1点目は、これは会長とも議論しているが、北海道食の輸出拡大戦略という目標がある。先ほど重点化というお話があったが、それは、目標に対して道内の企業、産品、産地を落とし込んでいって、その担い手となる企業の輸出をバックアップしていく。継続的な輸出につながらない、という話や、物産展では売れるがすぐに売れなくなってしまう、という話がよくある。バイヤーとの継続的な取引となってくると、輸出支援に関連する機関のバックアップが必要となってくるので、企業を主役に関係機関がワンストップで支援できる体制づくりを構築していくことが大事だと思う。その体制の中にも位置付けていただけると非常にありがたい。

以上2点、具体的な取組のご提案をさせていただいた。

#### (経済部 沖野局長)

北海道ブランドの発信というのはいつも一言で片付けるところがある。食や観光などどこまで書き込めるかというところではあるが、そんなに簡単な話ではない。当然だが、北海道ブランドが浸透している地域と、ほとんど知らない地域があり、そこによってやり方や発信の仕方、主体、そういったものを変えていくことが必要だと思う。特に新たな戦略となった中で、当座2025年までの中で、体系的な発信をなるべく具体的に整理していく、ということでまた検討したいと思う。

#### (国際課 曾根課長)

井上部長、お願いします。

**(北海道観光振興機構 井上部長)**

私からお話したいのは3点。

まず、観光の立場で2点ほどお話しする。

国連世界観光機関や、G20 など、観光の中で使っている言葉が4つある。「サステナビリティ」、「デジタル化」、「移動の安全」、そして、北海道で一番大事だと思うのは「シームレスな旅行」。やはり、これから北海道が観光として世界に売り込んでいくときに、シームレスな旅行をどうやってつくっていくかが非常に大事だと思っている。

もう一点、14 ページに、グローバルネットワークの強化ということで、世界に売り込むという形で、具体的に何をやるかという事例を記載いただいた。非常にわかりやすいと思うが、取組イメージの中に「デジタル技術の積極的な活用や、海外のインフルエンサー、道の海外拠点等を通じた効果的な情報収集・発信」と記載があった。観光振興機構では、いろいろな取組を実施しており、特に、デジタルなプロモーションとして、動画を作って SNS で発信している。1 つ作ったらすべての国に受け入れられるというものではないので、国によってすべての内容を変えて、そこの国に合うもの等、分析をしながら、各国に合ったデジタル発信をしている。道の観光予算事業というのは、機構が行っているのだから、道単独の事業だけを記載するのではなく、機構と連携して世界に観光を売り込んでいるのだということを記載してはどうかと感じた。

また、海外のインフルエンサーというのは今更と感じてしまうので、もう一歩先を見た上でやっていただきたい。

3 つ目としては、環境問題への対応。先日、道内企業とお話をした際、ゼロカーボンに取り組みたいが、何をやったらいいのか、というお声があった。何をやるのか打ち出すのが、この北海道グローバル戦略なのではないかと思っている。これを見たときにこれならやっていけるぞということが見える具体案を出していただければと思う。

**(経済部 沖野局長)**

道と機構は一体として事業を実施しており、当然、機構の行うプロモーションも含めて記載していきたいと考えている。

また、ゼロカーボンを何からスタートしたらよいか、具体的ところがわからないという話はよく耳にする。そういったところを少しでも指南できるよう、記載内容を工夫していきたいと思う。

**(国際課 曾根課長)**

ほか、いかがでしょうか。

ご意見以外にも、今回の修正についての感想や受け止めでもけっこうですので、ご発言をいただければ。

それでは、竹花副会長、お願いします。

**(H I E C C 竹花副会長)**

私は、意見を申し上げるというよりも、感想を申し上げたいと思う。

事務局の方々におかれては、前回の懇談会での非常に多様なご意見等を一本化されたということに対し、深く感謝を申し上げ、敬意を表したい。また、一方でパブコメを実施中ということで、まだ修正が入っていくものと考えているが、この路線で対応していただければと思う。

1 点申し上げると、戦略の改訂に当たって、という部分が今回新たに追加された。今回の改訂に当たって、我々や道民の方々の問題点、現状認識を共有化するというために

非常に重要なパーツだと思うので、さきほど（大津）先生からご指摘があったことも踏まえ、修正し、ぜひ本編に盛り込んでいただきたい。

（国際課 曾根課長）

ありがとうございます。ほか、いかがでしょうか。  
では、平井先生、お願いいたします。

（札幌大学 平井講師）

皆様のご意見、ご感想を伺いながら、まさに私もその思いでいた。私も意見というよりは、これまでの感想をひとつだけ述べさせていただきます。

皆様にご指摘くださっていたが、3ページの「戦略の改定にあたって」というページを、前面に盛り込まれたというのは非常に有意だと思っている。また、資料4のような形でまとめられているのは、北海道グローバル戦略の大きな方向性がより明確に打ち出されており、非常に良いと思う。あとは皆様のご指摘を受け、若干の修正等があることと思うが、私は大きな方向性としては十分だと感じている。

（国際課 曾根課長）

フン会長からも一言、お願いします。

（在北海道ベトナム人協会 フン会長）

私からも感想をお話する。現行の戦略に、皆さんの意見が反映され、素晴らしい内容になった。これなら順調に目標を達成するようになってきていると思う。

戦略への意見ではないが、先日、倶知安に行った際に、完全に日本の文化と違うヨーロッパのような町に発展していた。北海道の中で、倶知安や富良野のような町ができるときに、国や道による支援や戦略的なものがあればと感じた。

（国際課 曾根課長）

道の動きとしては、海外から来られた外国の方が安心して生活できるような体制がとれるよう、市町村や民間の団体等と連携しながら事業をすすめている。そういう中で、外国から来た方々が地域で自らの文化を発信しながら活動していただければ非常にありがたいと思う。

（経済部 沖野局長）

先ほど、倶知安のお話があった。素晴らしいところだが、課題も当然ある。倶知安の形とは違うかもしれないが、北海道の中にも、いろいろな地域で外国の方がどんどん集まれる地域が増えてくると思う。我々としても、お互いの距離感になるべくないような形を取っていく。住民の方々にも理解していただき、また、来られる方にも理解いただけるような政策等を作っていきたいと考えている。いずれにしてもお互いの地域の方が行き来できるような環境づくりをしていきたいと思う。

（国際課 曾根課長）

それでは皆様、多くのご発言をいただきまして、ありがとうございました。

予定の時間となりましたので、ここで、終了させていただきます。

本日、皆様からいただきましたご意見につきましては、案の策定に当たって活用させていただきます。

最後に事務局から、今後のスケジュールについて説明させていただきます。

**(国際課 黒田補佐)**

本日ご議論いただいた「北海道グローバル戦略(2021改訂版・素案修正)」について、皆様からのご意見や11月10日を期限としたパブリックコメントによる意見のほか、ターゲットの重点化・明確化等について、今後精査をすすめ、北海道議会第4回定例会での報告を視野に「2021改訂版・案」という形で策定させていただき、内部の手続きを経た上、当初予定どおり、年内には成案としてまいりたいと考えており、皆様には案の段階でご報告させていただく予定です。

なお、今回の議事概要については、道のホームページで公開する予定としており、追って皆様に記載内容の確認をさせていただきますので、ご協力をお願いいたします。

**(国際課 曾根課長)**

ただいま、案の段階で皆様にご報告する旨お伝えしたが、議会議論等も経た最終案は12月頃になると考えている。お示しする時期については、検討させていただければと思います。

以上ですべての議事を終了しましたが、全体を通してご発言などありますでしょうか。それでは、最後に、国際局長の酒井よりご挨拶させていただきます。

**(総合政策部 酒井局長)**

本日は貴重なご意見をいただき感謝申し上げます。

11月1日付けで国際局長に着任した酒井。

まだ勉強不足な点が多く、こういった戦略の改定作業等を通じながら、私自身もいろいろ勉強させていただき、皆様のご意見を参考にさせていただきたいと思っているので、引き続きよろしくお願ひ申し上げます。

本日は、貴重なご意見をたくさんいただいた。また、前回も多くの意見をいただいたと伺っており、皆様のご意見を今回の戦略の改訂案の中に、盛り込ませていただいた。

本日いただいたご意見の中で、現状認識をしっかりと分析するべきというご意見をいただいた。今回のコロナによるパンデミックの状況をグローバル・ナショナル・ローカルといった区分でしっかりと分かりやすく伝えていくべきだというご意見をいただき、また、現状分析が重要だというご意見をいただいたので、どこまでどういう風にかこれから検討させていただくが、しっかりお答えできるように取り組んでまいりたいと考えている。

他にも、北海道ブランドの情報発信や観光振興機構との連携した取組等についてもご意見をいただいたので、そのようなご意見を踏まえつつ、この後、道議会や、今月10日をパブリックコメントの期限とさせていただいているので、そのような内容も踏まえて、改めて皆様にお示ししながら改訂作業をすすめてまいりたいと考えている。

引き続き、皆様のご協力を賜りながら、戦略の改訂を進めて参りたいと考えているので、よろしくお願ひ申し上げます。

本日はお忙しい中、ご出席いただき感謝申し上げます。

**(国際課 曾根課長)**

以上をもちまして、第2回有識者懇談会を終了いたします。

本日は、お忙しい中ご参加いただき、ありがとうございました。

(別紙1)

「北海道グローバル戦略」の改訂に係る第2回有識者懇談会

出席者名簿

(五十音順・敬称略)

氏名	所属	役職	備考
井上 かおり	(公社)北海道観光振興機構	海外誘客部長	
大久保 敦	(独)日本貿易振興機構	北海道貿易情報センター所長	
大津 和子	北海道ユネスコ連絡協議会	会長	
竹花 賢一	(公社)北海道国際交流・協力総合センター(HIECC)	副会長兼専務理事	
平井 貴幸	札幌大学	講師	
レ クエウ フン	在北海道ベトナム人協会	会長	

【道】

氏名	所属	役職
酒井 隆	北海道総合政策部	国際局長
曾根 宏之		国際局国際課長
沖野 洋	" 経済部	経済企画局国際経済担当局長
堀内 一宏		経済企画局国際経済課長